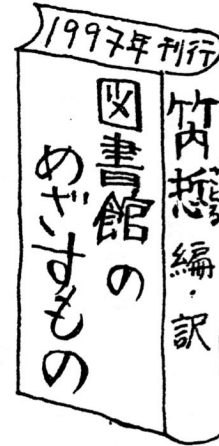


おい図書館

No.85

発行 代表
青木 和子
松本市牧の原 104-416
TEL 047-311-0886

日本図書館協会



要旨

図書館は変わった。大学図書館

も公共図書館も新築・改築が進められ、人を迎えるのために働くという雰囲気生まれて、利用も活発になった。公共図書館はこの20年間で、館数は2倍強、個人貸出は6倍近くになった。様々な機器の活用により、サービスは迅速に今までできなかったことも実現するようになった。それにつれて図書館が話題になることも増え、利用者の関心・期待も高まっている。しかし、現実はいま「発育停

止」の様相の中、図書館員の努力によってやっと停滞を免れているといえる。自治体、教育機関、企業などに財政上かけりが見えたり、蔵書数が増えてきたりすると、資料費を削る。「本を貸すのに専門知識は不要」と司書を配転し、図書館について知識も経験もない人を回してきて、サービスを低下させる。人手不足には、すぐボランティアを、と言うが、図書館とボランティアとの関わりは充分な議論がないままである。「機器が進歩したから本を買う必要はない。将来図書館は不要になる」と言い出す理事者も現れる。が、本当にそうだろうか？税金により

授業料により、企業や団体が自己資金によって図書館を維持するのは、ただ本を並べて貸すだけのためののだろうか？図書館員とはどんな仕事をどのようにする人たちなのか？つまるところ図書館とは人間にとって何なのか？

このような問いかけは、これまで常に行われてきたが、今日コンピュータの発達につれて一層切実なものになっている。こうした問題意識のもとに、1994年、日本図書館協会はアメリカでの調査を行い、多数の図書館界のリーダーの見解を聞いた。そこで強く印象づけられたのは、彼らが民主主義という時間と忍耐と経費とを要することに図書館員として真剣に関わっていること、社会の変転と利用者の要求の変化に応じて図書館の方針を立て、サービスを展開する柔軟な姿勢をとること、そして逆境に負けない強靱な考え方をもち

続いていることであつた。

その後、1995年12月「アメリカ図書館協会（ALA）」は「アメリカ社会に役立つ図書館の十二ヶ条」を発表した。これは、図書館の理念について十二の角度から大胆率直な図書館観を展開した、極めて示唆に富む内容であり、こうした図書館観こそが、彼らリーダーたちに共通した基盤なのであつた。

アメリカ社会に役立つ

図書館の十二ヶ条

はじめに

図書館は、必要なときにはいつでも利用できますし、いつでも私たちの心を豊かにし、私たちの知る権利を守ります。それはちやうど社会の他の機関が私たちの安全と財産を守るのと同じことです。

しかし、その基本に健全な精神がなければ、安全な道路と治安の

よい住居環境という理想は、決して実現しないのです。

図書館は、その健全な精神、つまり、私達の自由と民主主義の健康とを守ります。

この十二ヶ条は、私たちみんなが誇りと自由の精神を持ち、21世紀に向かうにあたって、図書館を生き／＼とした現実の存在とするために、きつと役立つことと思ひます。

1. 図書館は市民に知る権利を提供します。

2. 図書館は社会の壁を打ち破ります。

3. 図書館は社会的不公平を改めるための地ならしをします。

4. 図書館は個人の価値を

尊重します。

5. 図書館は創造性を育てます。

6. 図書館は子どもたちの心を開きます。

7. 図書館は大きな見返りを提供します。

8. 図書館はコミュニティーを作ります。

9. 図書館は家族のきずなを強めます。

10. 図書館は一人ひとりを刺激します。

11. 図書館は心の安息の場を提供します。

12. 図書館は過去を保存します。

△△はこれに先立って

「インフラメーション・スーパーハイウェイ
(情報の高速道路)」

の公平利用について

—その問題点と可能性

について—

を発表した。

◎アメリカ図書館協会会長

メッセージ

「インフラメーション・スーパーハイウェイ」は極めて豊かな情報供給を約束するが、それと共に情報における貧富の差ができる恐れをもたらす。電子情報を手にするためには、強力で高価な設備と技術を必要とする。それを備えるために図書館を支え、公共図書館、学校図書館、および大学図書館をオンライン化する必要がある。

誰もが情報を公平に入手できるようにするため、今こそ地域の図書館と他のすべての図書館との努力をみんなで支えなければならぬ。図書館は、すべての人々が図書館員から専門的な援助を受け、新しい技術を利用することができるところなのである。

◎情報の道路の交通規則

1. 情報の公平性
2. 情報の公開性
3. 手ごろな価格——図書館のオンラインに使うための通信料金は、政府によって低率に規定されるべき。
4. プライバシーの尊重——図書館の貸出記録を公開してはならない。
5. 言論の自由——言論、信教集会、請願の自由は守られねばならない。
6. 利用の容易さ——政府、情

報通信関連企業は操作の統一基準を設定し、最大限の利用のし易さをめざすべき。

◎あなたにできること

今こそ図書館のために

発言しよう。



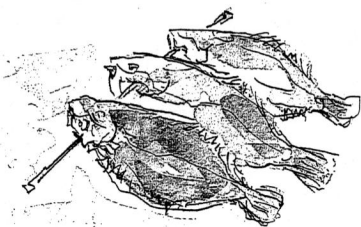
毎年4月の図書館週間の一日を「議会に対する図書館運動の日」とし、ALA会長をはじめとする図書館関係者や地域の代表者がワシントンに集まり、議員を招いて図書館の重要性を語り、国の図書館予算削減の停止、さらに大幅な増額を求めて運動を展開する。全米50の州から500人の代表が参加するという。

図書館協約

こうした図書館の様々な活動に支援を惜しまない人たちが、図書館をどう見ているのか。それを、全米図書館友の会連合会は「図書館協約」として、1989年に発表した。ここには、利用者としての立場から図書館にはこうあってほしいという期待が述べられ、ボランティアとして働く場合の基本線が示されている。それは「図書館とはこの目標に向かって進むものと理解するがゆえに、住民としてできる限りの協力をする」すなわち「図書館がこの目標に向かうのであるければ、我々は支持する理由を持たない」という厳しい態度の表明と見ることができる。

ボランティアを図書館に受け入れるということは、人手不足だから手伝ってもらおう、という安易な発想ではないのである。それは

図書館の内部を今までより以上に市民の批判にさらし、その批判をしつかり受け止めて、市民と一緒に図書館を作っていくという強い姿勢を必要とする。その姿勢は、しつかりした図書館政策と、専門職としての知識と経験の蓄積と、この仕事を通して市民にサービスを提供する意欲とのあらわれである。その姿勢をこそ持つべきだと、この協約は示唆しているのである。



これらはすべて 考え方の面で共通性があり、アメリカ社会の基本的な図書館理念のあらわ

れと見てよいであろう。

それだけが、アメリカの図書館員と地域の人たちの「図書館の発育停止」に対する危機感から生まれた、理念と、行動の指針と、利用者からの期待とであり、先に述べた様々な疑問に対する答えを示すものである。それは、日本国内における「発育停止」に対する危機感とも重なり合い、その答えもまた、我々にとって大きな意味を持つ。

特に、個人の成長を図書館の基本とし、地域の力としている点は、きわめて重要である。

これは、比較という手法を使って自分自身を検討する過程での、相手方の状況なのである。

文責 青木 和子

